



～hugくみ～

学年目標

飛

～素直な心でお互いに尊重し合い、小さな翼を
立派に成長させて未来へ翔けだそう～

《修学旅行 目標》

Ultimate School Trip

～究極の修学旅行～

- 一、団結をして仲を深める
- 一、伝統文化を学び、思い出に残す
- 一、コロナに負けるな！健康第一！
- 一、ルールを守って、安全に気をつける
- 一、パッと臨機応変に行動、ピースを大事に

人生いろいろ ～佐藤敏之の話～

今、青空学年の生徒たちが少しずつ自分自身の進路（人生）について考え始めている時期なので、今回は私自身（佐藤敏之）の進路（人生）にまつわる話をさせていただきます。

私は、「教師になる」という夢を抱いて教育学部のある大学に進学しました。そして大学時代、小中学生のバスケットボールのコーチをやり、土日や長期休業中はほぼその活動に時間を費やしていました。だから

そんな私の姿を見ていた多くの人たちは「きっとこの人は、ちゃんと先生になるのだろうな」と思っていたことと思います。実際にそういった言葉をかけられたこともしばしばありました。しかし私は、大学卒業後、教師にはなりません。理由は、自分に物足りなさを感じてしまったからです。バスケットボールを通じた小中学生との関わりは私にとってとても充実したものでした。でもそんな中で、子どもたちと向き合う自分自身に何か足りない、このまま「先生」になっていいのだろうか、なんて、まだ若かった私はそんなことを思い、教師になることをやめたのでした。そして卒業後に始めたのが園芸屋でのアルバイト。花束などの切り花ではなく、育てるための花苗や鉢花を売るお店です。花の販売だけでなく、お客さんの家に花壇をつくりに行ったり、庭木の植え込みや剪定なんかもしたりしました。なぜ園芸屋だったのかと言えば、今までそういうことにまったく興味がなかったからです。自分を変えたいと思っていたので、自分の知らない世界に飛びこんでみようと思ったからです。これが、始めてみると思いのほか楽しくて、しだいにのめり込むようになった私は京都にある大学の通信課程でランドスケープデザインなるものを勉強するようになりました。普段はアルバイトを続けながら自宅で学習し、月に1回程度スクーリングのために夜行バスに乗って京都に足を運びました。新しい学びと発見のある充実した日々でした。しかしそれが最後まで続けられたかということではなく、途中で転職が訪れます。それは、母親の体調があまり良くなくなってしまったことでした。小学1年生で父親を亡くして以来、私を含めた3人の子どもを母親は一人で育ててきてくれました。そんな配偶者のない母親が十分に働けなくなってしまったら、当然満足な収入も得られません。そんな中で私が自分のやりたいことだけをやっているわけにもいかず、転職することにしました。別にいやいやそうしたわけではありません。もちろんその時やっていたことをやめることに心残りはあったけれど、自分で選んだことなので後悔はありませんでした。そして次に就いた仕事は宅配便の配達です。この仕事を選んだ理由は2つ。1つは、ある程度十分な収入があったこと。そしてもう1つは、小さい頃に亡くなった父親が牛乳屋を営んでいて、よく牛乳配達に連れていってもらっていた記憶が自分の中に楽しい思い出として残っていたからです。しかし、いざ仕事を始めてみるとそれはもう過酷そのもので、“楽しむ”なんて余裕はこれっぽっちもありませんでした。早朝から夜遅くまでひたすら配達の仕事で目の回る日々を送りました。それでも目の前にある仕事を必死にこなしていく中で、少しずつ「配達」という仕事の楽しさ、やりがいを感じられるようになっていって、1年後には店舗の責任者にもなって職場の仲間やお客さんたちと楽しく日々を送るようになりました。じゃあこのままこの「配達」の仕事の続けていくのかということここで

(裏面に記載あり)

も転機がやってきます。それなりに頑張っている私に「役職者（管理職）にならないか」という話が持ちかけられたのです。それは出世の道が開けたといえれば聞こえはいいですが、見方を変えれば現場でお客様と触れ合いながら仕事をする機会が極端に減ってしまうことを意味し、そこでもまだまだ若かった私は、そのことに疑問を感じ、同時に「もう一度、子どもに関わることを勉強し直してみたい」という考えも持つようになりました。そして、出世するどころか正社員から契約社員に変えてもらい、配達の仕事で出会った知人から誘われて生命保険の個人代理店なんかも同時にしながら、子どものためのセラピーとか赤ちゃんのマッサージとか文章の書き方とか、色々なことを勉強しました。そういうことをしばらく続け、どちらかと言うと悠々自適に暮らしていた私に、ある日、またしても（そして人生最大の？）転機が訪れます。中学時代の同級生から連絡があり、限られた日数の短い時間、非常勤で「先生」という仕事に携わることになりました。誘われた理由はいたって単純で、教員免許を持っていて時間の融通がきいたからです。その時点ではまだ本格的に教師になる気はなく、始めは「頼まれたから」という理由でやっていましたが、そこで出会った生徒や先生方と共有した時間の中で「やっぱり先生になりたい」という想いを改めて強く持つようになり、今、ここでこうやって青空学年の一員として務めさせてもらうに至っているわけです。

20代の頃は、もう自分が教師になることはないだろうと思っていました。約10年にわたるとても長いまわり道でした。でも、そんなまわり道の中でひとつ胸を張って言えることがあります。それは、いつ、どこで、どんなことをしている時でも、自分なりに目の前にある物事と一生懸命向き合ってきたということです。どんなことの中にも意味ややりがいを見つけながらやって来られたから、何一つ自分にとって無駄な経験はなかったし、そんな中で多くの人たちとの出会いは今の自分にとってかけがえのない人生の財産となっています。そしてそんなふうに人生を送ることができたのは、今振り返ってみると、中学時代に色々なことを悩みながらも一生懸命頑張っていた経験があったからなんじゃないかと思っています。

青空学年の生徒たちは今、人生のひとつの岐路に立とうとしています。でもそれは「どの学校に行ったから」とか「進学したから、就職したから」とかで価値が決まるものではありません。大切なのは、どんな環境でも、進んだ先でどんな時間を過ごすことができるかだし、そのために今、自分とどう向き合い、自分の進路をどう考え、今頑張るべきことを自分なりにどう頑張るかなのです。前号でも書かせていただいたことですが、形（結果）だけではなく、中身（過程）を大切にしていってほしいです。青空学年の生徒たちなら、きっとできると思います。これから、悩むこと、苦しむことがあるかもしれませんが、少しずつでいいので、自分の目で進むべき方向を見定めて、自分の足で前へと進んでいってほしいです。周りには、仲間がいます。「みんな」で「笑顔」で残り177日間を過ごしていってもらえたら嬉しいです。

今後の予定

(今 週)

日	曜	行事等
13	月	45分授業 清掃カット 諸活動停止 1組⑥代表授業
14	火	45分授業
15	水	45分授業
16	木	45分授業
17	金	45分授業 進路説明会冊子持ち帰り

(来 週)

日	曜	行事等
20	月	敬老の日
21	火	45分授業 諸活動停止 ⑥文化祭展示見学(リモート)
22	水	45分授業 第2回進路説明会
23	木	秋分の日
24	金	45分授業

※「諸活動停止」は放課後の活動がすべて無しで帰り学活後に全員下校することを示します。
 ※月間を通しての行事予定は、学校だよりおよび学校ホームページにてご確認ください。